

第3回世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループ ～場をひろげる～への
質問・意見及び回答

第3回世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループにおいて、以下のとおりいただいたご質問・ご意見等を取りまとめるとともに、事務局より回答いたします。

※なお、個人を特定する内容については掲載しておりません。

パネルディスカッション前半、ピアサポート活動の実践報告や、「地域にあったらいいなと思うピアサポート活動」について、あなたのご意見、ご提案、ご感想を教えてください。

- ・ぼーとからすやままでのフリースペースで自然発生的にたわいもない会話の中でピアサポートが行われていたというところに興味がわいた。皆ピアサポートができる力を持っている。
- ・ぼーとからすやまさんのぷちぴあが可愛らしくていいなあと興味を持ちました。気軽な感じではじめられそうな雰囲気がいいなと思いました。私の住んでいる地域担当もぼーとからすやまさんなので、いつか通える体力がいたらぼーとからすやまさんへ行ってみたいと思いました。
- ・「ぼーとからすやま」さんの当事者活動がすばらしいと思いました。居場所としても活動内容も。私も参加したいと思うのが本心です。
- ・ぷちぴあでは、誰もがぴあスタッフを実践していると思います。みんなが知らず知らずのうちに誰かの役に立っていることを感じられる場だと思います。それを振り返りで言語化して、次の場（ピアサポート養成講座など）につながっていくと、その方の場が広がっていきますね。
- ・「ぷちぴあ」という愛称をつけることによって親しみやすくとても興味がわいた。
- ・ぷちぴあの場が区内に多数有り、ピアの人たちが思い立った時自由に利用できるよくなるといいなと思いました。また、相談支援においては専門職が利用者のニーズを整理し生活支援をすると同時に寄り添い心の支援としてピアの方とペアでかかわれるといいなと思いました。
- ・フリースペースのような場所で、学生の宿題を手伝うなどの世代間交流が積極的になされていたことがとても良い活動だと思います。

・とても良い活動でピアの力が効率的に発揮されているように感じました。こんな場が作れることを尊敬しますし、長く続くことを祈っております。しかしながら、今回のお話の中で、ぽーと(世田谷区の一つの地域)の範囲だから、あたたかく丁寧な対応が出来るようにも感じてしまいました。範囲が広くなると誰が何が得意かを知るだけでも大変そうだな・・・という感想です。

・自然発生的に活動が出来る様に身がまえない様には出来そうもないなあと思いました。いるだけでピア人柄は重要でしょう。ふんわりとした気持ちになれるかどうか？

・ぽーとからすやまさんのお話を聞き、当事者が「つながるプロジェクト」を通じて何気ない会話を交わしたり、一緒に宿題を手伝う、ゲームをするといったような活動を行い、世代関係なく当事者をつなげるという取り組みは、地域社会において大切な役割を担っていると思いました。私は地域福祉に興味を持っているので、特に興味深かったです。また、「ぷちぴあ」という名称についても印象的でした。活動にあたって責任や不安を感じる気持ちに配慮し、気軽に参加してもらえよう工夫されていて感心しました。

そして、ソラティオさんのお話を聞き、特に印象的であったことは、当事者の生活とハートの部分を、専門員とピアスタッフそれぞれの強みを生かして協働するという考え方です。本人を一番理解しているのは本人ですが、同じ経験をしたピアスタッフなら説得力も高まり、より深く本人の気持ちに寄り添えると思います。そういった見えにくい部分へのアプローチにピアスタッフが積極的に取り組んでもらう姿勢に感心しました。

・自分が思っていたよりも広い年代の方々がピアサポート活動をされており、驚きました。また何か大きいイベントをしなくてはいけないわけではなく、小さな活動でも意味のあるものになると感じました。一人で乗り越えるのではなく、みんなで協力して不安感よりも安心感を大きくするという言葉がいいなと思いました。同じ思いを持ったさまざまな人が集まってみんなで進んでいくことができるということを多くの人に知ってもらいたいとも思いました。

生活の支援だけでなく、安心の支援も必要であることや見えにくい気持ちの部分（孤独、不安、悩みなど）は同じ経験をした見える人がサポートしていくことが重要であることもわかりました。

・専門職とピアスタッフの連携や、いるだけでピアといったお話を聞いて、とても参考になりました。障害の有無にとらわれず、お互いを尊重し合い、一人一人の個性、強みを発見して協力して生かし合っていけるようになりたいです。ぽーとからすやまの一軒家を居場所にす

るといった取り組みのように、地域や様々な場所にそういった集まれる場所があるとよいと思いました。

専門職としての強みやピアスタッフとしての強みがあり、専門職だけが支援するのではなく、ピアスタッフと協力することでよりよい支援になるようだったため、そういった連携を増やしていけたらと思いました。

- ・ 日常的な活動の中からピアサポート活動に繋がっていったという話を聞いて、活動としてピアサポートに近いことをしていたり、それらの活動をしたいと思っていても"ピアサポート"という言葉自体に巡り合っていないということもあるのではないかと感じました。

また、ソーシャルワーカーの視点とピアスタッフとのそれぞれの視点の話から、それぞれの関わり方の距離感や見方の違いによって新たな視点や関係を得られるというのは、ピアサポートに限らず様々な福祉の場面で応用できるように感じました。

- ・ 岡部さんが触れられていた専門職とピアサポーターとの役割分担、チームとしての協働については、本当にわかりやすく、腑に落ちました。また、最後にお話されていた、ピアサポーターが本人に寄り添い、専門職がその部分に割いていた時間・エネルギーを地域づくりやその他の支援に活かしていくという構図も、今後の支援の在り方を考えるうえで、大きなヒントをいただきました。

- ・ ピアサポーターと専門職の役割の違いや、専門性が整理された。活動をする上で大事な協働することについて。いろいろな立場の人たちで色々な意見を交わすこと、考える空間、そういったプロセスが大事なことを知った。自分の自治体で今後進めていく際に大事にしていく姿勢を学んだ。

- ・ ピアスタッフもソーシャルワーカーもお互いが協働することでよりよい方向へと進んでいけるということを実感できました。障がいをもっているからできないなんてことはなく、それこそ当事者にしかわからないこともある中で、当事者を置いてけぼりにするような支援のやり方は間違っているのではないかと感じていたので、今日参加されていたパネリストの方々のお話を聞いて私が抱いていた疑問を形にして解決していったる凄さに学ぶところがたくさんありました。

- ・ 同じ経験をしているピアスタッフは誰よりも当事者に近い存在であると考えさせられ、もし自分が誰かに相談するとしたら自分と同じような経験をしている人に話したいと考えるためピアスタッフはとても重要な存在であると感じた。

- ・ピアサポートには、当事者とのかかわりだけでなく、横のつながりというのが大事であるということを確認できた。
- ・ピアスタッフだからこそできる部分や専門職との役割分担により、ご本人へのよりよい支援に繋がっていくと思いました。
- ・ピアスタッフだからこそ分かる気持ちや経験があることを学びました。専門職とピアスタッフがお互いが尊重し合い、それぞれの強みを生かして、協力しあいながら支援を行うことが、よりよい支援に繋がると感じました。
- ・B型作業所でのピアサポートに関してアドバイスを求められた際に、岡部さんがそれは自分たちで考えるべきだと発言されていたことが印象に残りました。それまでの話の流れでもあったように、話し合いを通して、お互いの意見を交わし合う中で、共に考えていくプロセス自体が重要であると考えさせられました。また、価値観はそれぞれであるからこそ、多様な考え方が学びとなり、お互いを尊重し合う姿勢が大切であるように感じました。
- ・まだまだ間口は狭く、人も少ないピアサポート事業。ピアサポーターとして、一人の人が全てを語るのとは不可能な現実。その中において、いろんな個性を持ったピアサポーターが誕生することが必要だと感じました。
- ・効果がある、必要であるという何となくの感覚を7年がかりで形にした（資料の）図はなるほど！こんなまとめ方があるのかと感心しました。
- ・ピアサポート活動を行う際には他の専門職と適切な関係性を築き、1つの支援チームとして行うことで多様な視点となり、ピアスタッフだけでは気づくことのできなかったその専門職だからこそ気づくことができる様々な視点からの新しいピアサポート活動が明らかになってくるのではないかと思います。
- ・サポートを受けた方の体験談から、必要な普遍的要素をまとめることで、支援の質が向上するのではないかと感じました。
- ・私は、賃金を得られるピアサポーターになりたいと思いました。
- ・今回のパネルディスカッションでの実際にピアサポートの活動を行っている方々のお話を聞いて、参考になることを多く感じました。あつたらしいと思うピアサポート活動で、若いころから精神障害について知っていくことが大事、という部分を聞いて、まず知ってもらうことが理解を増やしていくために重要であると気づきました。

- ・地域とのつながりを作るためにも、学校などと協力してピアサポート活動ができれば良いと思いました。
- ・各地域で、楽しめる場を作れられたら安心できると思いました。
- ・夕方から夜にかけて、ひとりだとさみしくなり、話す人がほしくなります。欲しいです。夜、夕方のサポートを…
- ・とてもわかりやすくお話ししてくださりありがとうございました。実際にピアサポート活動に関わられている方々からの生の声をお聞かせいただけ、伝わってきました。
- ・ピアサポートの活動の場が広がっていることがわかり、とても興味深かったです。
- ・病院に勤めています。病棟からでは地域の活動が見えづらいので、今回のワーキンググループで垣間見ることができたよかったです。
- ・「場作り」について詳しい活動内容を聞きたかった。
- ・「ぽーとからすやま」以外でも民間団体など世田谷区内での実践例があれば知りたかった。
- ・在住区にはピアサポーターが在籍しておらず、自分が所属する事業所のフリースペースがピアの場となるような働きかけが必要なのではないかと思いました。
- ・世田谷区での取り組みが他市区でもスタンダードで行われるとよいと思いました。

【事務局より】

たくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございます。

ぽーとからすやまの宮内さんにお話いただいた「ぷちぴあ」の取り組みについて、多くの反響をいただきました。何かをやらなければいけないというわけではなく、自然発生的なピアサポート活動で、『誰もがピアサポートができる力を持っている』『みんなが気軽に参加でき、知らず知らずのうちに誰かの役に立っていることを感じられる場』、こういった「いるだけでピア」の活動、場を、世田谷区としてより広げていきたいと考えています。

また、相談支援あらかわの岡部さんからは、これまでの相談支援におけるピアスタッフとの協働実践から、専門職（相談支援専門員等）とピアスタッフの強みや役割、専門性の違いと、協働する上での大切な視点について、とても分かりやすくお話しいただきました。

「安心の支援」、なかなか見えにくい「ハートの支援」が、当事者としての同じ経験をもつピアサポーターの強みであること、ピアサポーターであってもなくても、人それぞれに強み（得意）と弱み（不得意）や価値観、個性はそれぞれである

こと、そして協働、活動するためには、お互いを尊重し合いながら、なにができるのか、どのように協働していけるのかを共に考える時間、空間、プロセスが大切であること。参加者の皆様からも、このことの大切さについて、たくさんのご意見ご感想をいただきました。

皆様からのご意見も踏まえ、令和4年度以降のピアサポーターが活躍する場、ピアサポーターとの協働の場づくりを促進する仕組みづくり、取組みに向けて、引き続き検討し進めていきます。

パネルディスカッション後半「ピアサポート活動の場に必要環境や体制づくりについて考える」について、あなたのご意見、ご提案、ご感想を教えてください。

- ・ピアスタッフがいることで相談支援専門職よりも当事者に寄り添うことができ、心の部分を理解できるという点でピアスタッフの重要性を学びました。
- ・相談支援専門員とピアスタッフとの協働が重要であることがわかった。
- ・相談員が話を聞くだけでなく、経験をしたことがあるピアスタッフも加わることで、本人も話しやすくなるだろうしピアスタッフもやりやすいのではと思いました。
- ・小阪さんのお話の中で、プライベートなつながりのうち、他の障害を持つ人とのかかわりも重要であるという点が印象に残っています。ピアサポートと聞くと、同じような課題を抱えている人同士の交流というイメージが強かったが、他の障害の人たちと関わることで、また違う視点から学ぶことがたくさんあるのではないかと思います。
- ・人間関係はどんな立場と立場でも重要だと思いました。
- ・出来れば1箇所だけではなくて、数箇所の相談出来る場を持っておくと、つながりとか、モヤモヤとか愚痴とか話せていいと思いました。自分が自分らしくいられる場、幸せになれるような他者貢献が出来るといいなと思います。
- ・ピア、専門職に限らず「しなやかな芯」を持つために、他者と関わったり、連携したりするんだなというのが印象でした。また、ピアが出来ることが増えたら専門職は場を広げるために動き出すというのは、目から鱗というか、「一緒にやる」視点と「ピアの活動になっていく」事はどちらも大事だと思いました。
- ・他職種、いろんな人との接点をもつこと。誰かの役にたつのだとすればやりがいにつながるのかなと思いました。
- ・一度だけでは理解が及ばないところも多々あり。資料をいま一度よく読んで、自分に取り入れたい。（しなやかな芯のところなど）
- ・ピアスタッフという活動のことを授業では知っていたのですが、活動している方々のピアサポートを行う上で、「様々な揺らぎや葛藤が常にあるもの」ということを新たに知りました。福祉のサービスを提供している方のサポートも非常に重要だと感じました。
- ・福祉の専門職は感情労働とも言われ、日々周りの方の感情に引っ張られるのをピアの方からの不安としてお聞きしました。現在定期的なSVを受けることで自らを客観的に捉え仕事の

安定につながっている自分の経験からも、ピアのSVの場の整備とピアネットワークづくりが大切だと思いました。

- ・就職した人に対し継続するためのサポートをすることはかなり重要だと感じました。
- ・意見抽出の場や、孤独を防ぐための関わりをどうしているのか気になりました。発足も大変な時間がかかったと思いますが、運用をしていくことがもっと重要に感じます。
- ・ピアサポーターの心の体調について、世田谷区も配慮してほしい。
- ・職場以外でありのままの自分でいられる場所や自分らしくいられる居心地のいい場所は、どなたにとっても必要で、それをどうやって実現するのか、コロナ禍で大変だとは思いますが、早く実現できるといいと思いました。
- ・ピア活動をするにあたり、「本当に私にできるか。やっぱりだめだ、でもやりたい」といったような葛藤や負担感、不安感が当事者のなかにあることがわかった。「あのぷちぴあみたいになりたい！！」と思う当事者を増やすことはとても重要だと思いました。
- ・誰でも同じ人だよということ。「専門性の前に人がいる」頭に残っている言葉です。そういったことを踏まえて、人生経験すべてがどこで活躍するのかわからない、ある意味人類ピアなのかなとも思った。
- ・当事者と支援者の価値観が異なることが当たり前であることを再確認できて、ピアサポート活動のハードルが下がったように感じています。
- ・障害者と健常者の間に現に壁は存在するが、それをお互いにつないでいくのがピアサポートだという言葉に深く頷けるものがあった。
- ・職場にピアスタッフを雇用することはかなりハードルが高いと感じていました。しかし障害がない人同士の状況と変わらないと認識ができ、心のバリアを作っていたのは自分自身でもあったと思います。
- ・毎回参加する度に、当事者の方々の言葉のメッセージ性の強さを感じます。

小阪さんがおっしゃっていた、「ピアサポーターは自身の経験を基盤にしているため、強みが一人ひとり違う」という言葉は、ピアサポーターに画一的に役割を求めてしまわないような、ある種の戒めの言葉と受けとめました。

Sさんがおっしゃっていた、スーツ姿の人前で話す緊張、無音のプレッシャー、近くに安心できる人がいてほしい、といった思いは、障害の有無にかかわらず、人前で話す時には共感する普遍的な思いであるとも感じました。

当事者の方々のお話を聞くたびに、感じてらっしゃる課題は、必ずしも障害のある方特有のものではなく、とても普遍的な日常生活での困りごとでもあると思いますし、違いが見えづらい分、理解を広げる難しさを実感します。

- ・本日のパネリストの方のお話で、音や部屋の雰囲気にも気を配る必要があると感じました。また、当日行けなかったらどうしよう（ぴあスタッフ）、来られなかったらどうしよう（主催者）を解消するために、動画を事前に撮影しておくのはお互いに安心だと思いました。

- ・様々な失敗・不安から、Sさんが真摯に語ってくれたことが良かった。

同じ人間として、共通の目標に向かい、7年かけて作ったソラティオの相互理解、強みの話は、「見えない壁をどうするか？」の解決につながると思う。

- ・Sさんの気持ちの伝わる発表、小阪さんの人生まるごとピアとしての財産、という話が聞いて良かったです！

- ・Sさんの音楽への想いをうかがったとき宮内さんのコメントで「客観視が苦手」とありましたが（ご自身の目標でもあるとおもいますが）それだけSさんはご自身の創作（クリエイト）に集中していらっしゃるのだなと感じました。アーティストとしての強みだと思いました（集中するあまり辛いこともあるでしょうが）。その想いを込めた音楽も、ぴあサポートの活動も両面から、そしてやがてひとつになって世界の人々を勇気づけていかれるのだらうと感じました！

- ・当事者の方々の話が、本人から直接聞いたのはよかった。

- ・今日初めて参加させて頂きました。小阪様、S様の生のご体験を伺わせて頂き、どうも有難うございました。まだ「ピア」の概念がよく分かっておりません。強みや得意な点を自由にらせる、見つけて頂くことができたなら、孤立や孤独から免れ、良い関係が築いていけるのではないかなと思いました。

- ・ピアサポーター当事者の方の生のお気持ちを話して下さり、伝わってきました。また、伴走する支援者の方が真摯に向き合ってこられたことがよくわかりました。目指したいと思いません。

・他の人の役に立つとうれしいというお話に、これは人類みんなに共通する気持ちなのだなあと感じました。困難や葛藤も含め、共に乗り越えていく覚悟、とても重要だなと思いました。ご登壇の皆様、本当にありがとうございました。野本様の最後の感想やまとめにも愛と熱意を感じて感動しました。どうもありがとうございました。

・お互いの体験談は分かったが、このパネルディスカッションの論議までは、もっていけなかったような気がする。

・ピアサポートの活動をもっとたくさんの人に知ってもらうことが環境や体制づくりにつながると思います。

・ピアサポート活動の周知。例えば、地域の社協でお話し会を開催するなど、ハードルが低い取り組みから始めるのがいいかと思います。ピアサポーター養成講座などサポーターになりたい人のための周知活動。

・病院として地域のピア活動と協力していけるとよいと思います。

・最後のまとめで、共生社会においてピア活動などが発展すれば、逆に専門職の関わりが少なくなっていく可能性もあり、そこをどうしていくかも課題、というようにお話がありました。そのようなことをもっと掘り下げて聞きたかった。

・体制づくりは必要であると思います。私は、個々人が意識する、しないに関わらず、自分が今いる場所で知らず知らずのうちにピアって行われていることがあると感じます。

・環境や体制は、地域によって異なりますが、おのおので考え、意見交換できたらいいなあ。と感じました。

【事務局より】

たくさんのご意見・ご感想をいただき、ありがとうございます。

相談支援あらかわのピアスタッフ小阪さんのお話では、小阪さんのこれまでの経験や実践、エピソードを交えながら、ピアサポーターとして継続的に力を発揮し活動し続けるために大切なことをお話いただき、多くのご意見・ご感想をいただきました。

また、ぽーとからすやまの当事者講師として活動されたご経験を話されたSさんの言葉に、気持ちや想いが伝わってきたというお声を多くいただきました。

小阪さんにお話いただいた、ピアサポーターの活動においては、様々な揺らぎや葛藤、不安が生じるものであり、その中でも活動を継続していくための「しなやか

な芯」をもてるよう、ピアサポーターとしての職場以外の人や場、他職種や様々な人や場との接点をもつこと。

このことは、Sさんにお話いただいた「柱をもつこと」と通ずるものとして受け止めるとともに、参加者のみなさまからも、反響をいただきました。

「当事者と支援者の価値観がことなることが当たり前であることが再確認できてピアサポート活動のハードルが下がったように感じる」、「障害者と健常者の間に壁は存在するが、それをつないでいくのがピアサポートだという言葉に深く頷けるものがあった」、「ピアサポーターは自身の経験を基盤にしているため、強みが一人ひとり違う、という言葉は、ピアサポーターに画一的に役割を求めてしまわないような、ある種の戒めの言葉と受け止めた」、「強みや得意な点を自由にだせる、見つけていけたら、孤立や孤独から免れ、良い関係が気づいていけるのではないか」、「職場にピアスタッフを雇用することはかなりハードルが高いと感じていたが、障害がない人同士の状況と変わらないと認識でき、心のバリアを作っていたのは自分自身でもあると思った」、このようなご意見をいただきました。

今回ご参加いただいた皆様のご意見・ご感想を踏まえ、令和4年度以降のピアサポーターが活躍する場、ピアサポーターとの協働の場づくりを促進する仕組みづくりにおいて、ピアサポーターが安心して活動するためのサポート体制や、その人の強みをいかした活躍、活動に向けた、ピアサポーターと協働する支援員やピアサポーターの活動に興味がある団体・支援者への研修について検討していきます。

その他、本日のワーキンググループ全体を含め、ピアサポート活動に関する意見や提案、感想などをご自由にご記入ください。

- ・本日のお話を聞く前はピアスタッフについてほとんど何も知りませんでした。ピアスタッフがいることで、目には見えないハートの部分の支援を行うことができることを知りました。どんなにその人の状況を理解し、学ぼうとしても、ピアスタッフにしかできない寄り添い方があるのではないかと思います。しかし、専門職がピアスタッフについて知ることで、少しでも寄り添った支援ができると思いました。また、ピアスタッフについて学びたいです。本日はありがとうございました。
- ・ハートの支援が広がるといいなと思いました。それぞれの個性の強みを生かして、無理なくセルフケアをしながらピア活動が出来たらいいなと思いました。
- ・「暮らしの支援」と言われると、私はクライアントであるその人の生活が良くなるように支援することであると考えていたのですが、今回のお話の中では、暮らしの支援とは生活の支援ともう一つその人の安心の支援の2つであり、見えやすい生活の部分はソーシャルワーカーといった相談支援専門員がメインとなって支援を行い、見えにくいハートの部分はピアスタッフメインとなって支援を行い、お互いが協働で支援していくと話しており、暮らしの支援と言われるとクライアントの生活の部分だけに焦点が当たりがちになってしましますが、暮らしにはクライアントの安心という心の部分も含まれているということをお忘れはいけないということがわかり、自分の暮らしの支援に対する考え方に変化があったのでとても印象に残りました。
- ・ピアスタッフと相談支援専門員はやる事が同じなのに何が違うのだろうと感じていたが、ピアサポート活動ワーキンググループに参加し、説明していただくことで、やることに関しての明確な違いはないが、強みが違うということが分かった。
- ・ソーシャルワーカーとしての強みとピアスタッフとしての強みの違いがとても印象に残りました。私は社会福祉士の資格を取得することを目標にしているので、この強みを忘れないようにしたいと思いました。様々なお話を聞くことが出来、とても学ぶことが多かったです。ありがとうございました。
- ・よく福祉のことを学ぶときに「支援する」という言葉をよく聞きますが、支援者とされる側といった上下関係のような線引きをするのではなく、互いを思いやり一緒に解決していこうとする心の繋がりが求められると思いました。また、支援と聞くとクライアントの悩みや問題を解決していかないといけないといった強い責任感を感じてしまうのですが、傍にいても支援になるということをお気づかせました。傍にいて、孤独ではないという心の安心感やメンタルヘルス、気持ちの安定などはワーキンググループでもあったように全国民の課題である

という考えにとっても共感しました。もっと言えば全人類の課題とも言えるのではないかとも思いました。

・自然発生的にピアサポートが起こることがあると分かり、興味深かったです。

・ピアスタッフ、支援者である前に同じ人間であるという岡部さんの言葉に全く同感です。ぴあサポーターを中で囲い込まない、外部とつながれるようにする、ということは学びでした。ありがとうございました。

・今回、ピアサポート活動に関するお話を聞かせていただき、「仲間」という存在は大きいものであると感じました。悩みを共有すること、何気ない会話をする事など、人とつながりを持ち、関わることは心を健康にしてくれる大切なことだと思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

・最初は誰もが初心者。すこしは楽に考えられました。

・今回の世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループでお話をされている中でここまで出来るのに簡単にできたものではなく、何年もかけていろいろなことを試行してできたとおっしゃっていました。それを聞いて一生懸命ピアサポートの活動を行っていることはすごく尊敬出来て素晴らしいことだと感じました。

・暮らしと生きがいは生きていく糧になるでしょうネ。心のバリアフリー。共生社会。

・「仕事には行けていますか」等の質問で「こんなにも自分は病人なのか」と強く自覚してしまう、というお話が強く印象に残りました。また、精神科療法ではない治療は苦痛に感じられる、というお話も印象に残りました。当事者の方の、実際感じていることを聞くことが出来、知見が広がったように感じます。大変勉強になりました。ありがとうございました。

・自分自身ではなかなかこのような活動にかかわることや知ることができなかつたため、今回お話を聴きピアスタッフの方たちについて少しだけ理解することができた。また印象に残ったのは実践マニュアルについてであり、私のように関わりが少ない人でも理解しやすいと感じました。

・精神障害について理解しているつもりでもよくわかっていなかったもので、当事者の方や支援員の方のお話を聞くことができる貴重な機会に参加でき、新たな知識を得ることができてとても参考になりました。

・サポーターも支援を受ける側も「あそこに行けばピアサポートの場がある」と、気軽に参加できる場が地域にあること、それを作っていくために参画することを希望します。

- ・ 砧地域ではどのようなピアサポート活動が行われているのか知りたいと思った。
- ・ 「障害、病気が強み」で、同じような経験をしたからこそ築き上げる「仲間づくり」は、とても大切だと思います。まだ分からないことだらけなので、また都合が合えば参加させて頂いて、学び続けたいと思います。どうも有難うございました。
- ・ 高齢で障害をお持ちの方にも、ピアサポートが必要であると実感しています。幅広い世代にハートのケアは必要で、安心感をもってもらうには、制度による生活支援では足りません。ピアサポートも、長期的、継続的まさに地域包括ケアの一部になれたらなあと思います。
- ・ 障害者だけでなく、高齢者の世界でのピアサポート活動についてもっと知りたいです。高齢者の増加により、認知症の方などが今後増えていくだろう状況で、それを打開できる策の一端を担えるのでは、と考えています。
- ・ 利用者の体験談はなるべく少なくして、どういった居場所が良く、スタッフのサポートがどういったものが良いのか議論して欲しい。
- ・ 私は賃金に重きを置くのだなと実感しました。
- ・ 相互コミュニケーションの重要性を痛感した。覚悟の話に共感した。河原先生の距離感と語りかけが良かった。
- ・ 今日は大変に体調が悪く、これまでのように、やる気がでなかった。添付していただいた資料は、ページが膨大で印刷をするのがとても大変だった。今後この様な添付資料があっても、印刷は出来ません。（用紙を夜遅くコンビニにこうにゅうしに行ったり、プリンターも壊れた）
- ・ このような場に、オンラインでつながらせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。ご登壇の皆様の様子も見えて、お声もよく聞こえて、このようにカメラやマイクをセットアップしていただきましたことにも御礼申し上げます。
- ・ ピアについて改めて知ったり考える貴重な機会でもとてもありがたく思っております。今日だけなのか、こちらの環境なのか分かりませんが、会場の音声がぶつぶつ切れたり、低音のノイズが入ったりと、聴きづらかったです。良い話をされてるんだろうなあと思う分残念でした。質問や意見を拾っていただいて、申し訳ないような嬉しいようなでした。ありがとうございました。ご登壇の皆様、野本さん、江村さん、本当にお疲れ様でした！
- ・ 前半部分だけ参加させていただきましたが、貴重なお話が聞いてよかったです。ありがとうございました。

- ・出席するたびに、とても大事なことを何度でも確認させてもらえます。ありがとうございました！
- ・ワーキンググループのように、連続して当事者の方々の生の声を聞きながら学びや気づきを得られる機会は本当に貴重だと思います。今後、ピアサポーターの活動の広がりと共に、このワーキンググループの内容もより豊かになっていくことを期待しています。次回も楽しみにしています。
- ・色々とお話が聞けて良かったです。とても参考になりました。
- ・有難うございました。支援者ではできないことを日々実感しています。今日の研修を参考に今後の自分の支援の在り方を再考したいと思いました。
- ・普段、当事者や関係者の方のお話を聴く機会は少ないので、今回は貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・社会福祉を学ぶ大学生としてこのような活動が行われていることを知ることができてよかったです。ありがとうございました。
- ・本日は、登壇された方々、また、裏に表に運営を支えていただいた方々に御礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

【事務局より】

たくさんのご意見、ご感想をありがとうございます。「参画したい」「また参加したい」というお声もいただき、ありがとうございます。

今回は『場をひろげる』をテーマに開催しました。今回いただいたご意見・ご感想は、令和4年度以降のピアサポーターが活躍する場、ピアサポーターとの協働の場づくりを促進する仕組みづくりにおいて、ピアサポーターと協働する支援員やピアサポーターの活動に興味がある団体・支援者の方々にとって大切な視点、ヒントとなるものであり、団体・支援者向けの研修や場を広げていくための仕組みづくりにつなげていきます。また、その他のご意見やご感想も今後の施策検討の参考とさせていただきます。

第4回は『人と場をつなぐ』を予定しています。今後も引き続き、皆様のご意見をお伺いしながら進め、また今後の施策へとつなげていきます。引き続きのご参加をお待ちしております。